# ちいさなパンやさん

辻　貴司
絵　かまたいくよ

「ヒロキ、いくよっ！」
かけ声と同時に、テッちゃんが、ガラスのはまった木のドアを、思いっきり引いた。
カランコロンと、ベルがなる。
「じしゅくケイサツだ！」
ぼくたちは、いきおいよく、ふみこんだ。
とたんに、あまい香りが鼻をくすぐる。
あっ、いいにおい。
ぼくの鼻が、ひくひくよろこんだ。
「あらまあ、いらっしゃい……」
ふとっちょのエプロン姿のおばさんが、焼きたてのクロワッサンをトレイいっぱいにのせて運んでいた。
「そこのクリームパンも、焼きたてだよー」
おばさんが、紙マスクをフカフカいわせながら、明るい声でいった。
だめだ。まだ、事情がわかっていないみたいだ。
ぼくたちは、パンを買いに来たわけじゃない。
「ぼくたち、じしゅくケイサツだぞ！」
テッちゃんが、百均で買ったピストルをかまえた。ぼくも、手作りのケイサツ手帳をつき出してみせる。
「きんきゅうじたいせんげんが出ているのに、どうして、お店をやってるんですかっ？　パンはみんな没収です！」
いった。はっきりいってやった。さすが、テッちゃん、かっこいい。
それなのに……。
「あはははははっはは」